

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3373600455	
法人名	有限会社 フクダ	
事業所名	グループホーム こすもすの家 (ユニット共通)	
所在地	岡山県美作市真加部1385-1	
自己評価作成日	平成 28 年 2 月 25 日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3373600455&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート
所在地	岡山県岡山市見たく南方3丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館
訪問調査日	平成28年3月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご本人の意志を尊重しつつ、その人らしい生活を過ごして頂けるように心がけています。入居者の皆さまの健康管理や水分補給に注意しながら日々の生活を元気に送っていただけるように援助しています。季節の行事を取り入れ、季節を感じとれるようにしています。今持っている力を十分に発揮できるように、物作りなどを取り入れ楽しめるようにしています。レクリエーションや生活リハビリも日々の生活に取り入れています。時間を気にすることなく、ゆったりのんびりとした生活ができるように心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成15年1ユニットのホームで開設し、その後2つ目のホームが併設されたが、5年前に2ユニット化した。ユニットの間には広いウッドデッキがあり、両ユニット内だを自由に出入りでき、利用者と職員は自由に行き来して、合同で行事やレクもしている。今回訪問の時も、両ユニット合同でお好み焼きと焼きそばを職員と利用者で作り、合同昼食会とレクリエーションをした。利用者の表情や会話は盛んで笑顔が溢れており、楽しい生活が繰り広げられている。両ユニットのリビングや廊下の壁には利用者と職員合同で制作する大作が、このホームの意欲と挑戦心を物語っていた。色々な素材と技法を織り交ぜて、その年の干支や風物に合わせたデザインと制作を繰り返す作品は恐らく県下一番だろうと思う。そしてケアマネージメントが優れている点を挙げておきたい。毎日の生活記録に対する考え方、利用者の意向からプランへの展開の仕方が運動して、医療と介護の連帯感が素晴らしいと見る事が出来た。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のミーティング時に再度確認しあい、実践につなげている	「心豊かに輝いて、穏やかに齢を重ねていける生活のサポート」と「自分らしく輝いて生きる・出来る事を増やせる支援」という理念とホームの特色がマッチしており、利用者は活発組とその他の利用者の穏やかさとの調和があり、職員の一生懸命さと明るさを見ることが出来た。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事に参加したり、地区の保育園や小学校との交流を図っている	社長はホームがこの地に存在する限り、この地の一員としての付き合いは当然という意識の上に立ち、地域行事や小・中学校行事への参加等で自然体で付き合いを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に民生委員、愛育委員、老人会、地区の住民の方に参加をして頂き、入居者、入居者の家族を交えて、認知症の話聞いていただき理解を求めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を行い、現状報告等を行い、そこで出た意見を参考に次の介護サービスの向上の参考にしている。また地域活動の情報を得て、入居者の参加につなげている	市職員、民生委員、愛育委員、老人クラブ、地域包括職員、利用者、家族とホーム関係者が参加して情報交換を行っている。災害対策、地域との繋がり方、外出方法、個人的な質問などに対し、ホームからそれらの対応について明確に回答している記録物を確認する事が出来た。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者に相談したり、運営推進会議に参加していただき、意見を聞いて協力関係を築くようにしている	運営推進会議において、市担当職員、地域包括支援センターと情報交換を行っているので良い連携が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会へ積極的に参加している。また、ミーティング時に例題を出し勉強会を行っている	研修会や勉強会で、職員が共通認識を持っている。特に、車椅子利用者等に万止むを得ず行為に及ぶ時は丁寧に声掛けしている職員の姿があり、日常の信頼関係の上に立った良い関係性が成立している事を感じた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者・職員がともに高齢者虐待防止の研修会に参加し、施設内において報告を行い、すべての職員が注意・防止に努めている。またミーティング時に例題を出し勉強会を行っている		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に積極的に参加し、後見人に対して報告、連絡、相談を行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、十分な説明を行い、納得して頂いた後、契約書にサイン・捺印をもらっている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を開いて、家族の意見を聞く場所を設けている。また運営推進会議にも参加の声掛けを行っていて、そこで出た意見や要望を運営に反映させている	「こすもす通信」と日常の暮らしぶりの写真を満載して家族に届けたり、家族会や運営推進会議席上で意見や要望を取り入れる為の多くの接点を持っている。家族会はホーム設立当初からの伝統となっており、ゲーム、食事会、家族の出し物等利用者、家族、職員が一体となっていくので、何でも言い合える関係が出来上がっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回ミーティングを開き、職員の意見や提案を聞き運営に反映させている	ユニット毎に行い、運営に関する事と同時にカンファレンスも行っている。社長が毎日顔を出しているため、職員は会議の他直接に意見を伝える事が可能である。2ユニットの管理者、職員は良く連携を図り、職員同士も忌憚のない意見を出し合い、社長に届いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が介護をしやすいような職場環境を整えている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の介護の力量を見ながら、いろいろな研修会への参加を促している。また外部から実習生を受け入れることにより、実習生の指導をしながら、自分のスキルアップを図る機会をつくっている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域施設交流会を開き、勉強会や意見交換などを行って、相互にサービスの向上に努めている		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時、本人の話を聞くとき、困っていること・不安なこと・要望を十分に聞きながら、安心して生活できるような関係づくりをしたうえで、サービスの提案を行っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時、家族の話を聞くとき、一番困っていること・不安に思うこと・施設に対する要望などを充分聞いたうえで、施設において、出来ることなどを説明し安心してもらい、サービスに繋げている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時、一番本人にとって何が必要かを、本人・家族と話し合い、必要とする支援を見極めている。また、他のサービスの利用も含め検討している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が、本人と一緒に出来ることを探したうえで、出来ることは、なるべく一緒に行い生活を共にするようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と色々なことを相談しながら、入居者本人の支援をしている。どんなことでも、家族と相談し、信頼しあい、家族と共に支援している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・同級生・近所の方の面会・訪問があったり、時には、馴染みの場所にドライブに行ったりしている	利用者も職員も殆んど地元の人同士の関係であり、隣接のデイサービスにもユニット間にも知り合いが居り、日常的に大きな馴染みの輪の中で生活出来ている。新しい入所者には職員が間に入り、気持ちの合う人と同席にして馴染みの関係を作り上げている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で、世間話をしたり、レクリエーションや洗濯物たたみ・干しなどの家事を一緒にしたりして、利用者同士の関わりがもたれている		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても、これまでの関係を大切にし、必要に応じて、支援や相談に応じている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思に沿った暮らし方をしてもらっている。困難な場合、なるべく意思に近いかたちでの、生活をして貰えるよう心がけている	基本情報、生活記録から人物像を理解し、「日常のコミュニケーションの中や共同作業の中にも思いや意向の表出はあるので、見落とさないように利用者と向き合っている」という職員共有の姿勢がある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居室の中に、自宅で使っていた馴染みの物を置いたりして、なるべく生活環境が変わらないようにサービスに努めている。環境に対応できないときは、少しずつでも慣れていただけるよう努力している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人の身体状況、心身状況に合わせた生活を送ることや、毎日の身体状況、心身状況の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回のミーティング時にミニカンファレンスを行い、本人や家族の意見、要望を取り入れたり、職員の意見を反映させ介護計画を作成している。また必要に応じてカンファレンスの場を設けている	職員の担当制を敷き、生活の中の変化を把握する係となり、カンファレンスで検証して計画作成者がまとめている。介護プランは抽象的な事項になりがちなので、利用者の生活の満足度を得るために何を支援してあげたら良いのか、出来るだけ具体的な目標を掲げてあげられるよう心掛けて欲しい。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録を記入し、日々の気づきなど、職員間で情報を共有しながら、介護を行い、介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに対しての対応の心がけはできている。サービスの多機能化について、本人や家族と相談しながら対応できるように努めている		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホーム周辺の地域資源を取り入れられるように努力をしている。なかなか地域資源を把握できていない現状がある		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望する病院を受診したり、施設のかかりつけ医の往診が2週間に1度行われている	かかりつけ医が2週に一回、神経内科医が週一回の往診があり、訪問歯科は必要の都度の往診が受けられるので、利用者、家族、職員は安心できている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1度訪問看護を受け、入居者の健康状態を伝え相談している。また日々の関わりの中で、身体の変化があった場合、看護師に相談し病院受診などの対応をとっている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	入院時には、介護支援情報提供表にて、病院側にその方の情報を細かく提供したり、病院の方にも訪問し、状態を確認し合いながら、病院との関係づくりを行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化時の対応・看取りについて事業所で、出来ること十分に説明し、家族には同意書に署名・捺印を貰っている。先生から、終末期が近づいてきたと言われた場合、再び説明をさせて頂いている	医療体制を整え、ターミナルケアに対応できる体制は整えている。これまで看取りの実例はないが、現在、家族の要請により胃ろう処置者を職員が頑張っ対応している。リビングに続く畳の部屋に居心地良く寝床が敷かれ、日中はみんなと一緒に過ごし、誰からも温かく見守られている姿がとても印象的であった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	すべての職員は、応急手当や初期対応の講習などを行い、またベテランの職員が指導し、実践できるようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策マニュアルにそって、全職員が避難の方法を身につけている。地域の消防団の方にも施設の中の避難経路についても確認して頂き、協力体制ができています。	運営推進会議でも重要案件として協議され、定期的に避難訓練や取り決めてきた事の再確認等を行い、職員の意識を高め、地域との協力体制も確立している。	緊急避難の事態に備え、利用者の身体状況(車椅子利用者・手引き歩行者)等の表示をドアのノブに設置する等の工夫もあれば部外者が対応しやすい。

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人を尊重した言葉かけや対応に努めている	利用者一人ひとりの思いを理解し受け止める対応を頑張っている職員の態度や言葉から「尊重」以上の温かさを感じる事が出来た。賑やかに自己主張できる利用者も静かで控えめな利用者もそれぞれの場所に居ながら一体感を感じさせるリビングの雰囲気がある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が思いや希望を表したり出来るよう、声かけをしたりして働きかけをしている。本人がなかなか意思決定ができない場合が多いので、職員が協力し、少しでも意思決定ができるよう、働きかけをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースにそった生活が出来るよう心がけてはいるが、時折職員のペースになってしまう場合があるので、注意している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝、自分の着たい服を選んでもらったり、髪の毛を整えたり、たまにお化粧をしたりしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りの手伝いが出来る人には、一緒に作ってもらったり、配膳・下膳ができる人には、手伝ってもらっている	通常は業者の冷凍職員を活用し、汁物と旬の野菜の惣菜を添えて季節感を出来るだけ提供するようにしている。月一回はユニット合同でケーキ作りが定着しており、外食や行事食で変化を楽しんでいる。訪問日にはお好み焼きと焼きそばパーティーが合同で行われ、男性利用者が味付けやへら返しを受け持ち、賑やかに行われていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人にあった食事量・水分の調節をおこなったり、好みの飲み物を提供したりしている。硬いものなどは、刻んだりして食べやすい状態で提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝と夜の2回は必ず口腔ケアを行って貰っている。総入れ歯の方は、入れ歯を夜間、洗浄剤の液の中につけ、朝まで消毒している。食後はお茶を飲んでもらうよう声掛けをしている		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人にあった定期的なトイレ誘導を心がけている。なるべく、トイレでの排泄を促すようにしている	便器で排泄する事を基本に置いている。排泄記録に基づき個々に適した声掛けや誘導を行い、少しずつでも改善につなげるように努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食事を調理したり、しっかり水分補給をしてもらったりしている。少しでも歩いたりして貰い運動につなげている。それでも排泄につながらない場合には、薬の服用で調節する場合もある		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を楽しめるように支援している。本人の希望に添った入浴を心がけてはいるが、時々スタッフの都合での入浴になってしまう場合がある。希望により、夕食後の入浴も行っている	利用者は、毎日型、隔日型、シャワー浴の希望に合わせた支援をしている。浴室は安心と安全を第一とした設備を整えている。希望の時間帯にも配慮しながら、マンツーマンの入浴タイムは利用者の本音が聞ける機会なので、意識して対応する場と考えている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりが安心して、気持ちよく眠れるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が入居者、一人ひとりの薬について理解しており、薬を手渡し、服用したかまでをしっかりと確認している。病状の変化に対しても充分確認に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人にあった、役割や分担を決めて楽しみごとをつくり、気分転換に努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	暖かい日は、なるべく外に出れるように支援している。地域の行事ごとにも積極的に参加させてもらい、地域への外出もするようにしている。気分転換にドライブに出かけたりもしている。家庭菜園も積極的に作業されている	ユニットをつなぐテラスは年々改造変化し、今は多目的活用のスペースになって季節の行事を行なう等で外出効果にも活用されている。ユニット合同行事にはこの直近のテラスを通らないので、職員が寄り添い、遠回りの玄関から玄関を歩き来し、「こんにちわ」「さようなら」の挨拶を交わす交流があり、職員の意識の深さに感銘した。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人で金銭管理の出来る方はして頂いています。そして、ご自分の好きなものを職員に買って来て欲しいと頼まれたりします。しかしほとんどのの方がご自分で金銭管理ができませんので、こちらが、管理している状態です		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りは、自由ですので、出来る範囲内でやって頂くように支援しています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には、利用者が混乱をまねくようなものは置かないようにしています。室温・湿度には特に注意しています。季節感のある飾り物などをし、楽しめる空間作りを心がけています	このホームの開設以来の伝統とも言える作品作りは職員と利用者の手によって完成され、廊下とリビングに続く畳の間に胃ろう処置の利用者がリビングに向かって寝かされており、他の利用者と一体化してホームならではの温かさを感じる。ユニットを繋ぐテラスは多目的空間として活用されている。7匹の品の良い猫が付かず離れず利用者の間で愛嬌がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中で、気のあった人同士がソファに座って話しをしたり、個人が思うような場所で生活している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の居室には、使い慣れたものを置いたり、自分の趣味の物を置いたりし、住みやすい工夫をしている(使い慣れた筆筒・写真・テレビ・ぬいぐるみなど)	ベッドとクローゼットが備え付けられ、その他は各自で持込み、思い思いの部屋作りをしている。畳の部屋とフローリングの部屋がある。地震災害に備え、低めの家具を居心地良く配置しているので一見して落ち着きを感じる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	なるべく「出来ること」「わかること」はして頂き、安全に生活が送れるよう支援している		